

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 338 回 研究会 会員企業訪問

日 時 令和元年 10 月 15 日(火) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分
場 所 黒松紙器 株式会社
内 容 1部 黒松紙器 株式会社 工場見学
2部 ご講演・箱作り体験ワークショップ
代表取締役 黒松 宏吏氏

今回の研究会は、会員企業であります黒松紙器株式会社さんを訪問させて頂きました。当社は、昭和 27 年に創業され昭和 55 年に法人設立、今年で 67 年目を迎える企業で、60 年を超える歴史のなかで紙器の製造技術、取引先への提案力を培い、現在は和菓子や素麺といった各種贈答品等の包装に使用される化粧箱（貼り箱）の生産を主業務としておられます。

（1部 工場見学）

1部は、工場を見学させて頂きました。化粧箱は「貼り箱」と「組箱」の2つに区分されるとのことですが、当社では、より高級感を訴求できる貼り箱を主力に製造されています。今回の工場見学では、『紙の裁断→型抜き→化粧紙の貼り合せ→組立』といった「貼り箱」の製造工程を見学しながら説明を頂きました。積極的な設備投資により自動化された製造ラインで次々と「貼り箱」が生産されていく様子を参加者一同、興味深く見学させて頂きました。また、当社では「貼り箱」の型も自社で製造されており、木製の加工室も合わせて見学させて頂きました。



1部 工場見学

(2部 ご講演)

続いての2部は、黒松社長よりご講演を頂きました。

最初に、当社の沿革についてお話を頂きました。当社は昭和27年に黒松社長の祖父が黒松紙器工業所として創業されました。当時は香芝、広陵地域の地場産業である靴下の箱が主力製品であったとのこと。昭和47年に黒松社長の父が家業を引き継ぎ、工場、倉庫を建設し業容を拡大されました。昭和55年には当社を設立しギフトパッケージの分野に進出、製造技術、企画提案力を高め、素麺、和菓子等の高級ギフトパッケージメーカーへと進化されました。

黒松社長は3代目として平成25年に社長に就任され、新しい目線でパッケージを見直し、従来の四角の箱だけでなく、五角、六角、八角といった中身の商品がより良く見栄えする箱の企画開発に力を入れるとともに、生産能力の向上、作業員の負担軽減を図るために、工場倉庫の増改築、最新機の導入、自動化ラインの新設など積極的に設備投資を行い、更に業績を伸ばされています。

ご講演のあとは、参加者向けに箱作り体験のワークショップを開催頂き、予め型抜きした厚紙を箱に組み立てて、化粧紙を貼付ける工程を体験させて頂きました。

創業者の祖父から先代の父、そして、当代黒松社長へと時代のニーズを捉えた「ものづくり」を実践して来られると共に、常に将来に向けて経営の舵を取って行くといった、長く続く会社の秘訣を教えてくださいました。

ご講演、ワークショップのあとの質疑応答では、参加者の皆様から多くの質問や感想が寄せられました。黒松社長ならびに黒松紙器の皆様ありがとうございました。



2部 ご講演 ・ 箱作り体験ワークショップ